

期 日 平成30年11月22日(木)

場 所

授業者

1 題材名 せんりつのとくちょうをかんじとろう

2 題材の目標

旋律やフレーズを手掛かりに、曲想の変化を感じ取って聴いたり、曲想にふさわしい表現を工夫して歌ったりする活動を通して、思いや意図をもって表現する能力を育てる。

3 題材設定の理由

(1) 題材について

中学年の児童は、生活の中でいろいろな音や音楽に出会い、より豊かな音楽表現をしようとする姿が見られる。この時期に、曲想とその変化を感じ取って聴いたり、旋律の音の上がり下がりに着目しながら思いや意図をもって歌ったりすることで、児童は自らよりよい表現や自分にとって価値のある新しい歌唱の表現をつくり出すようになっていく。

本題材では、旋律やフレーズについて学習する手掛かりとして、旋律の音の上がり下がりなど、旋律の特徴を感じ取りやすい3つの楽曲を用いて、鑑賞、歌唱の活動を関連づけながら思いや意図をもって表現する活動に取り組む。まず鑑賞の活動から入る。教材として、バイオリンの旋律の動きに着目して聴くことができる「メヌエット」(ベートーベン作曲)を扱い、旋律の特徴(なめらかな感じやはずむ感じ)の違いや、曲想の変化を感じ取っていく。次に、歌唱の活動では、隣り合う音の上がり下がりから、なめらかな旋律とゆったりとした3拍子の曲想を感じ取りやすい「あの雲のように」(芙龍明子 作詞/作曲不明/飯沼信義 編曲)を扱い、旋律の特徴を感じ取った表現を工夫して歌っていく。最後に、旋律の動きが富士山の雄大な姿を思わせる「ふじ山」(文部省唱歌/巖谷小波 作詞)を扱い、旋律の動きに合った、曲想にふさわしい表現を工夫して歌っていく。

本校の研究主題は「自分の思いをもち、仲間とともに生き生きと表現する子どもの育成」である。この研究主題を受け、互いに思いを伝え合い、聴いたり歌ったりする中で、旋律の動きについての気付きや発見など児童の心を動かす場面を設定する。また、友だちの表現を真似し合ったり、一緒に歌ったりしながら旋律の特徴について思考する場面を通して、「旋律って面白い」「旋律の動きによって歌う工夫もできるんだな」という思いがもてると考える。この二つの場面を設定することで、仲間とともに曲想にふさわしい表現を工夫する楽しさを味わうことができる学習活動としていきたい。

(2) 児童について

<個人情報保護のため省略>

(3) 指導にあたって

本題材では、旋律やフレーズを手掛かりに、曲想の変化を感じ取って聴いたり、曲想にふさわしい表現を工夫して歌ったりする活動を通して、思いや意図をもって表現する能力を育てることをねらいとする。

本時で扱う「ふじ山」では、曲の山の歌い方に多くの児童が着目することが予想される。そのため、あえて曲の山だけに着目した歌い方を試す学習活動をする。その中で、児童が「曲の山に気を付けて歌うためには、フレーズや曲の始まりと終わりの歌い方も大事だ」と曲全体を見通した歌い方にも気付いていけるようにしたい。

○本校の研究仮説と本題材のねらいに迫る支援について

① 音楽で身につける力を明確にし、そのための手立てを工夫した授業づくり

- ・音楽を形づくっている要素に目が向くようにするために、リズムや旋律の動きを手で表す。
- ・児童の考えや願いと音楽を形づくっている要素を整理して板書する。
- ・歌い方の工夫を言語化、視覚化、共有化するために拡大楽譜を用意し、活用する。
- ・自分の思いや意図が表現できるように、繰り返し歌う場面を設定する。
- ・児童の言葉や歌声を、音楽を形づくっている要素（旋律）と結びつけて、価値づける。

② 互いのよさを認め合う場の設定

- ・一人一人の表現を学級全体で試すことで、そのよさを認め合うようにする。
- ・曲全体を通して、演奏を聴き合う場を設定し、互いのよさを共有するようにする。

4 学習指導要領とのかかわり

(1) 本題材で指導する事項

- A 表現 (1) イ ウ
- B 鑑賞 ア

(2) 取り扱う主な〔共通事項〕

- ア 旋律, フレーズ
- イ タイ

5 教材

- 鑑賞「メヌエット」 (ベートーベン作曲)
- 歌唱「あの雲のように」 (芙龍明子 作詞/作曲不明/飯沼信義 編曲)
- 歌唱「ふじ山」 (文部省唱歌/巖谷小波 作詞)

6 評価規準

(1) 領域・分野と評価の観点との関連

評価の視点 領域・分野	ア) 音楽への関心・ 意欲・態度	イ) 音楽表現の 創意工夫	ウ) 音楽表現の技能	エ) 鑑賞の能力
A. 歌唱	○	○	○	
A. 器楽				
A. 音楽づくり				
B. 鑑賞	○			○

(2) 題材の評価規準

ア) 音楽への関心・意欲・態度	イ) 音楽表現の創意工夫	ウ) 音楽表現の技能	エ) 鑑賞の能力
①「メヌエット」の2つの旋律の違いを聴き取り、楽曲全体にわたる曲想とその変化を感じ取って聴く学習に進んで取り組もうとしている。 (鑑賞：事項ア)	①旋律の音の上がり下がりを感じ取り、その働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、表現の仕方を工夫し、どのように歌うかについて、自分の思いや意図をもっている。(歌唱：事項イ)	①旋律の特徴が生み出す曲想にふさわしい、自然で無理のない歌い方で歌っている。 (歌唱：事項ウ)	①2つの旋律の特徴を聴き取り、その働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、楽曲の特徴や演奏のよさに気付いて聴いている。 (鑑賞：事項ア)

②旋律が生み出す曲想や歌詞の内容に関心をもって歌う活動に進んで取り組もうとしている。(歌唱：事項イ)	②旋律の音の上がり下がりやフレーズを聴き取り、その働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、どのように歌うかについて、自分の思いや意図をもっている。 (歌唱：事項イ)	②曲の山やフレーズを感じ取りながら、旋律の動きが生み出す曲想にふさわしい表現で歌っている。 (歌唱：事項イ)	
--	---	---	--

7 指導と評価の計画 (全5時間)

次	時	主な学習活動 (○ねらい ・学習活動)	教材	評価規準と評価の方法
一	1	<p>○バイオリンの2つの旋律の動きが生み出す曲想の変化を感じ取って「メヌエット」を聴くことができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常時活動 (歌の森：音楽会の歌を歌う。) ・アの部分聴いて、音楽会の曲と似ているところを見つける。 ・アの旋律を手で表したり、図形楽譜を見たりして、旋律の音の上がり下がりを確認する。 ・曲の続きのイを聴いて、曲想が変わるところで立つ。 ・どのように変化したか、手で表したり図形楽譜を見たりしながら発表し合う。 ・さらに続きを聴き、アの旋律に戻ったことを確認する。 ・アとイのそれぞれの特徴に合わせて、体を動かしたり指揮の真似をしたりしながら、曲全体を通して聴く。 ・学習のふり返りをする。 	「メヌエット」	<p>ア① 行動観察 (表情や発言内容)</p> <p>エ①ワークシート</p>
	2	<p>○「あの雲のように」の旋律の音の上がり下がりに関心をもって歌うことができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常時活動をする。(歌の森) ・教師の範唱(「あの雲のように」の歌詞ではなく、「ル」で聴く)を聴いて、「メヌエット」のアとイのどちらかに似ているか発表する。 ・教師の範唱を聴きながら、旋律の音の上がり下がり線を表す。(ワークシート) ・旋律の動きがなめらかな感じや一番多く使われている音、同じ音のつながり等に気付く。 ・旋律の動きを手で動かしながら伴奏に合わせて階名唱や「ル」で歌う。 ・歌詞を知り、ピアノ伴奏に合わせて歌う。 ・学習のふり返りをする。 	「あの雲のように」	<p>ア② 行動観察 (表情や発言内容) 演奏の聴取 ワークシート</p>
	3	<p>○ゆるやかな音の上がり下がりや歌詞の内容にふさわしい表現を工夫して、自然で無理のない歌い方で歌うことができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常時活動をする。(歌の森) ・前時の学習を思い出して、「あの雲のように」をピアノ伴奏に合わせて歌う。 ・ふんわりとした雲にふさわしい歌い方にするには、どう歌うとよいか発表する。 ・グループ(生活班)に分かれて表現の仕方を工夫する。 ・互いの工夫を聴き合い、感想を発表する。 ・それぞれの歌い方の工夫を生かして学級全体で歌う。 ・学習のふり返りをする。 		<p>イ①ウ① 行動観察 (表情や発言内容) 演奏の聴取 ワークシート</p>

三	4	<p>○「ふじ山」の旋律の音の上がり下がりや歌詞の内容を手掛かりに表現の工夫をすることができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常時活動をする。(歌の森) ・情景を想像しながら，教師の範唱を聴く。 ・ピアノ伴奏に合わせて，歌詞唱をする。 ・使われている音やリズムなど「ふじ山」と「あの雲のように」の楽譜と比べ，気付いたことを発表する。 ・次の時間に，「ふじ山」をどのように歌いたいのか，ワークシートに書く。 ・自分の考えを友だちと伝え合う。 ・学習のふり返りをする。 	「ふじ山」	イ② 行動観察 (表情や発言内容) 演奏の聴取 ワークシート
	5 (本時)	<p>○「ふじ山」の曲の山やフレーズを感じ取りながら，曲想にふさわしい歌い方を工夫して歌うことができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常時活動をする。(歌の森) ・前時の学習を思い出して，ピアノ伴奏に合わせて歌う。 ・曲の山を見つける。 ・旋律の特徴やフレーズを生かした歌い方を見つけて試す。 ・友だちの表現を互いに聴き合い，よいところや真似したいところを見つける。 ・それぞれの歌い方の工夫を生かして学級全体で歌う。 ・学習のふり返りをする。 		ウ② 行動観察 (表情や発言内容) 演奏の聴取 ワークシート

8 本時の学習 (本時5/5)

(1) ねらい

- ・「ふじ山」の曲の山やフレーズを感じ取りながら，曲想にふさわしい歌い方を工夫して歌うことができるようにする。

(2) 展開

学習活動 (・予想される児童の反応)	教師の支援	評価規準と評価の方法
<p>1 常時活動をする。 歌の森</p> <p>2 前時の学習をふり返りながら「ふじ山」を歌う。</p> <p>♡3 曲の山を見つける。</p> <p>4 本時のめあてを確認する。</p>	<p>・曲の山に向かって，だんだんもり上がる曲想が，旋律の動きを見て気付けるように曲全体を通した旋律の線を一行にした楽譜を提示する。</p>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>せんりつのとくちょうを感じ取って「ふじ山」を歌おう</p> </div>		

<p>☆5 曲の山を生かして、どのように歌ったらよいかについて思いを出し合い、歌い方を試す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山のちょう上をみざしている感じだから、だんだん強く歌いたい。 ・「ふ」だけ急に強くした歌い方は合わないな。 ・だんだん強くしたいけど、「く」をやり過ぎたらへんだね。 ・きれいな声で歌いたい。 <p>6 友だちの表現を互いに聴き合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なめらかに歌った。 ・「ふじは日本一の山」を強く歌った。 ・音がだんだん上がっていく感じを準備して歌った。 ・曲の山が近づくとつれて、はっきり歌うようにした。 ・四分休符で、息をすって歌った。 <p>7 みんなで見つけた表現の工夫を生かして「ふじ山」を歌う。</p> <p>8. 本時のふり返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲の山をもり上げて歌えて気持ちよかった。 ・きれいな形のふじ山の形で歌えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲の山だけに着目した歌い方ではなく、曲全体を見通して歌うことに気付けるように、ふじ山の写真や拡大楽譜を掲示する。 ・フレーズごとに歌い試せるように、繰り返し歌う場を設ける。 ・音楽を形づくっている要素に目が向くようにするために、旋律の動きを動作化する。 ・互いの演奏を聴き合えるように、学級を2つに分けたり、少人数にしたりして歌うようにする。 ・曲の山に向かって歌うときに、何に気を付けて歌ったか発表するように促し、歌い方を共有できるようにする。 ・児童の思いや考え、願いに近づく歌い方で歌えるように、児童が表現しようとしている姿（息つき、口の開け方、表情、動作など）を価値づけて、全体に広めるようにする。 ・「あの雲のように」の旋律の音の上がり下がりを示した楽譜と比べて、歌い方も変わったことに気付けるようにする。 ・学習活動の中で見られた児童の様子を学級全体に伝えて、共有する。 	<p>ウ② 行動観察 (表情や発言内容) 演奏の聴取</p> <p>ワークシート</p>
---	---	--

(3) 予想される児童の具体的な姿

評価の観点 【音楽表現の技能】ウ

<p>十分満足できると判断される児童の姿の具体例</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・曲の山に向かって、強弱を意識しながら歌っている。 ・「ふじは日本一の山」の「ふ」の部分の発音に気を付けながら歌っている。 ・フレーズごとに、息の量を調整しながら歌っている。
<p>おおむね満足できると判断される児童の姿の具体例</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・曲の山を感じて、なめらかに歌っている。 ・フレーズごとのまとまりを感じながら歌っている。
<p>支援を要すると判断される児童の姿の具体例と支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・曲の山は分かるが、曲の山に向かって歌う歌い方が分からない。 →自信をもって歌っている児童の近くで歌うように声をかける。 →友だちの演奏を聴き合う場面を設定する。 →曲想にふさわしくない歌い方を試す場を設定し、歌い方を見つけられるようにする。

(4) 授業研究の視点

「ふじ山」の曲の山やフレーズを感じ取りながら、曲想にふさわしい歌い方を工夫して歌うために行った以下の手立ては有効であったか。

- 子どもの発言に対する教師の問い返し。
- 繰り返し歌い試したこと。
- 板書の工夫。